



全私保連 保育運動 新しい時代は子どもから

いつもの保育の実践と 写真で伝える 私たちが伝えたい 7つのメッセージ

私たちが伝えたい7つのメッセージ

- 1 子どもの思いを受け止めましょう
- 2 子どもの「遊び」を守りましょう
- 3 子ども自身に乗り越える力を育てましょう
- 4 子どもの「自分でやりたい」を大切にしましょう
- ★ 5 子ども同士の関わりが大切です
- 6 みんなで食べると美味しいんです
- 7 子どもは自然が大好きです



5 子ども同士の関わりが大切です ……互いに育ち合う不思議な力

子ども同士の関係からは、時には見習い、時には助け合い、さらには配慮するなど、自らの意思により考えて工夫する機会が生まれます。特にトラブルなどにおいても、気持ちをコントロールすることや、お互いを認め合うこと等を学び、多様性を認める力やコミュニケーション力を高めることにつながります。

乳幼児期の心の発達には、愛着の形成が大切です。

愛着の形成は、子どもの人間に対する基本的信頼感を育み、その後の心の発達、人間関係に大きく影響します。



大人との愛着形成ができると、次は子ども同士の信頼関係が形成されるようになり、関わりが深くなります。結果として子ども同士の対話が増加するようになります。また、対話がなくても一緒の空間にすることで、「一緒にいることが楽しい」と感じるようになります。

例えば、ダンボールや空き箱を使って自分たちの基地を作って遊んでいる時には、「どうやって作る?」「何がいるかな?」……など、たくさんの対話が飛び交います。もちろん、意見が合わず言い合いになることもあります。

しかし、それを解決するのも子どもたちの力です。「誰か、ここ持ってきて!」「壊れても大丈夫だよ!」「できた〜!」などと言いながら、子どもたちには子どもたち同士で認め合い、作り出す力があるのです。

幼児期は、特に子どもの発達に差がある時期です。大人からの話をすぐに理解できる子どももいれば、理解が難しい子どももいます。

万が一できなくても、隣にいる友だちの姿を見ながら真似をしてみることと理解していく。「わからない」なんて言わなくても、友だちと一緒に行動し考えてくれる。子ども同士の関わりは、大人との関わりよりも意義が大きいと感じます。

そして、子どもたちは、言語が異なり言葉が通じない国の子どもたちとも、手をつないだり遊んだり、同じタイミングで笑ったり、大人ではできないコミュニケーションの力も持っています。子どもたちには、互いに育ち合う不思議な力があるのです。

子どもたちがこれからコミュニケーション力を高め、多様性を認めるといった成長をするために、お互いを尊重しながら生きていくために、子ども同士の関わりが大切です。